

はじめに

大学入試で出題された英文法の空所補充問題の中から、受験生なら必ず一度は解いておくべき「良問」を精選しています。1回の演習で10問ずつ出題しており、演習は全部で50回ありますから、合計で500問解くことになります。この500問を解くことによって、大学入試に必要なかつ十分な英文法の知識を習得することができるように本書は設計されています。

1回のテストで出題される文法項目は、本番の試験に合わせて意図的にバラバラにしています。例えば、第1問が比較、第2問が助動詞、第3問が関係詞と接続詞の融合問題…というようになっています。ですから、英文法の基本的な学習が一通り終わった段階で本書に取り組むのが効果的と言えます。

問題は別冊になっています。設問の指示文はつけていません。与えられた選択肢の中から適当なものを答えてください。そして本冊の解答・解説では、まず、大前提となる英文法の知識や表現などをコンパクトにまとめています。次に、その問題の具体的な解法手順の説明や、選択肢の正解・不正解の詳しい解説が続きます。「なぜその答えになるのか？」という解答の根拠を理解することが大切です。問題文に含まれる重要な表現も載せていますから、ついでに覚えるようにしましょう。

まとめには代表的な表現をリストアップしてあります。すべて正確に再生できるまで何度も繰り返して覚えてください。さらに、**まとめ**の表現に関して辞書を引き、その具体的な使用例を確認することを勧めます。辞書の例文を声に出して発音したり、ノートに書いてみたりすることは立派なスピーキングとライティングの勉強になります。なお、完成した英文を読み上げた、音声聞いて勉強することができます。詳しくは、p.004の読み上げ音声の活用方法をご覧ください。

500問をすべて解いて、解答・解説を一通り読んでも、それで終わりではありません。大学入試に必要なかつ十分な英文法の知識を完璧に定着させるためには、何度も何度も繰り返すことが大切です。計画を立てて定期的に復習をしてください。そうやって定着した英文法の知識が、英語4技能（＝リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）を支える土台となるのです。

文法分野別に復習をしたい場合は、p.006の文法分野別番号のリストに従って問題を解いて解答・解説を読むことを勧めます。例えば「仮定法が苦手だから、仮定法の問題だけを集中的に復習したい!」という場合は、「文法分野別番号のリスト」の「仮定法」の欄に書かれている3, 23, 43, 63…という順番で「問題→解答・解説→必要な知識の確認と再生練習」という学習をすると効果的です。

本書の記号

S: 主語 (原則として名詞)

V: 述語動詞

O (O₁ / O₂): 他動詞や前置詞の目的語 (原則として名詞)

C: 補語 (原則として形容詞や名詞)

to do: to 不定詞

do: 原形不定詞

doing: 現在分詞・動名詞

done: 過去分詞

* 修飾要素 (句・節) に関しては、以下の「かっこ」の使い分けをする。

[]: 名詞句 [節]

(): 形容詞句 [節]

< >: 副詞句 [節]

読み上げ音声の活用方法

①文法の理解を〈読む〉〈聞く〉〈書く〉〈話す〉につなげよう！

- ・設問と解説で文法や語法の重要ポイントを理解したら、必ずそのポイントを定着させ、さらにそれを運用できるようにしなければなりません。単なる知識から「読む」「聞く」「書く」「話す」という実技につなげることで、試験での大きな得点力につながるのです。
- ・ポイントを定着させるには、文法や語法に関する個別の知識を、「文」の一部として扱う必要があります。たとえば、「(○) avoid doing / (×) avoid to do」というポイントならば、The road was slippery, so I walked slowly to **avoid hurting** myself. (道が滑りやすかったので、けがをしないようにゆっくりと歩いた) という、一定の内容をともなった文の一部として扱うということです。
- ・「文」という単位が大切なのは、「読む」「聞く」「書く」「話す」という実技が、基本的には「文」を単位として行われるからです。本書のような文法問題の場合は、完成した英文がそれにあたります。

②音声を活用した復習で得点力をアップさせよう！

- ・「文」単位での復習を強力にアシストしてくれるのが本書に付属する「読み上げ音声」です（ダウンロードについてはp.005を参照してください）。完成した英文の重要ポイントを念頭に置きながら、音声を聞き、さらに自分で読み上げる、さらには書き出す作業を行ってください。
- ・音を用いることで、文法ポイントを「音のつながり」として身につけることが促されます。avoid hurting という表現に繰り返し接することで、avoid doing という形が身につく、また ×avoid to hurt という表現に違和感を覚えるようになるのです。
- ・〈ポイントを理解する〉→〈表現として定着させる〉→〈実技に生かす〉というサイクルを意識しましょう。そうすることで、文法問題だけではなく、読解問題、リスニング、さらにはライティングやスピーキングという〈発信型〉の技能にもスムーズにつながり、結果として試験全体での得点力が大きくアップします！

■具体的な活用例■

- ①設問を解き、解説をしっかりと読む。正解、不正解にかかわらず設問の重要ポイントを確実に理解するように心がける。
- ②完成した英文の音声を聞いて、文全体をノートなどに書き出す。このとき、文意を理解していることが大切。
- ③書き出した英文を見ながら音声を聞き、それに続けて音読する。これを最低2回繰り返す。このとき、設問の文法ポイントを強く意識する。

ダウンロード用音声は音読練習用に編集されています。英文が読み上げられた後で、音読用のポーズ（無音部分）が置かれています。ポーズの後もう一度英文が読み上げられ、再びポーズが置かれます。

- ④最後に、文全体をノートなどに2～3回書写する。音読しながら書き写すと効果的。

ダウンロードについて

パソコンから下記の URL にアクセスしてください。

<http://www.kawai-publishing.jp/onsei/01/index.html>

※ホームページより直接スマートフォンへのダウンロードはできません。パソコンにダウンロードしていただいた上で、スマートフォンへお取り込みいただきますよう、お願いいたします。

- ・ファイルは ZIP 形式で圧縮されていますので、解凍ソフトが必要です。
- ・ファイルは、MP3 形式の音声です。再生するには、Windows Media Player や iTunes などの再生ソフトが必要です。
- ・演習 1 回分が 1 つのファイルになっています。
演習 1 回目：RK01、演習 2 回目：RK02、……演習 50 回目：RK50 と、全 50 ファイルで構成されています。
- ・掲載されている音声ファイルのデータは著作権法で保護されています。データを使用できるのは、ダウンロードした本人が私的に使用する場合に限られます。
- ・本データあるいはそれを加工したものを譲渡・販売することはできません。

お客様のパソコンやネット環境により、音声を再生できない場合、当社は責任を負いかねます。ご理解とご了承をいただきますよう、お願いいたします。

演習 1 回目

R01

問題 1 ~ 10

(→ 解答・解説は本冊 p.004)

- 1 Japanese companies considered () their businesses in South Asian countries.
 ① expand ② expanding ③ expansion ④ to expand (摂南大)
- 2 Rats have been widely used in medical research because they () a number of traits with humans.
 ① are sharing ② have shared ③ shared ④ share (法政大)
- 3 A: If I () Prime Minister, I would lower taxes.
 B: You should be Prime Minister then!
 ① are ② had been ③ were ④ am (法政大)
- 4 My brother explained () the Internet.
 ① me to access ② to access ③ how to access ④ for accessing (群馬大)
- 5 Don't throw the textbook away. You () need it later.
 ① can't ② might ③ must not be ④ should be (会津大)
- 6 Miki was the only woman () a black and yellow hat — she looked like a bee.
 ① have worn ② had worn ③ wearing ④ worn (慶應義塾大)
- 7 Rapid () has increased the volume of international trade.
 ① global ② globalized ③ globally ④ globalization (大阪経済大)
- 8 Lower your voice, () you will be overheard.
 ① and ② or ③ but ④ so (千葉工業大)
- 9 Today, in science class, I learned that salt water doesn't freeze () 0°C.
 ① at ② in ③ on ④ with (センター試験)
- 10 I have more books at home ().
 ① than in my office ② than one in my office
 ③ than my office is ④ than those in my office (日本大)

37

解答 ③ that

全員に都合のよい時間を見つけるのは常に難しい。

解説 関係詞の問題。空所の後ろが **suits(V) everyone(O)** という構造なので、文として成立するには主語が欠けていることがわかる。先行詞 **a time** が「人以外」なので、主格の関係代名詞 **which** か **that** を用いるのが正しい。よって③ **that** が正解。「**a time** が時だから① **when** が正解だ」という考え方は危険。関係詞の問題は、**関係詞節内の構造分析**をするのが基本。

✓文全体は **[Finding a time](S) is(V) always difficult(C)** 「時間を見つけるのは常に難しい」という第2文型 (SVC)。動名詞句 **Finding a time** が主語になっている。

Finding a time is always difficult. + It [= The time] suits everyone.
→ **Finding a time that suits everyone is always difficult.**

38

解答 ④ shortly

スティーブは私が彼を見た直後に会社を出た。

解説 品詞の問題。本問は **Steve(S) left(V) the office(O) (< > after I saw him)** (副詞節), という文構造。after I saw him 「彼に会った後に」に「すぐに」という意味を添えられるのは副詞の④ **shortly** だけ。**shortly after [before] ...** の形で「…のすぐ後 [前] に」という意味になる。

(例) I saw him **shortly before** he died. 「私は彼が亡くなる直前に会った」

☞ **shortly** は「まもなく / すぐに / じきに (= soon)」という意味でも用いられる。

(例) I'll be back **shortly**. 「すぐに戻ります」

✓① **short** 形「短い」、② **shortened** ←動詞 **shorten** 「短くする」の過去形か過去分詞、③ **shortest** ←形容詞 **short** の最上級、④ **shortly** 副「まもなく / (shortly before [after] の形で) …のすぐ前 [後] に」

39

解答 ① on

解説 前置詞の問題。**S begin [start]** は「S (行事・出来事) が始まる」という意味で用いられる。始まる時を明示する場合は **<at + 時刻>**, **<on + 曜日・日付>**, **<in + 月・年>** などの表現が続ける。

(例) 「午前10時から試合開始だ」

(◎) The game starts **at** 10 a.m.